

「法政学」とは何か

あゆみをふまえてこれからを展望する

「法政学」のねらいと概要

「大学を知ろう
〈法政学〉への招待」
担当者

文学部 教授
小林ふみ子

1

1. 「法政学」のあゆみ

- 2009年 「明日の法政を作る審議会」
学部教育の充実化作業部会において
自校教育の必要性の提言
- 2010年 プロジェクト発足
- 2011年 秋学期「〈法政学〉への招待」開講
- 2012年 春学期開講へ変更
- 2015年 秋学期「法政学の探究A」開講
- 2016年 春学期「法政学の探究B」開講
(現 同 LA・LBを開講)

2

2. 「法政学」のねらい

- 対象 とくに新入生を想定
実際には2～4年生も多数
- 位置づけ 教養課程
「リベラルアーツ科目」
- ねらい
さまざまな入学経路、動機の入学生に
この大学のあゆみ、
この大学をを作ってきた先人たちを知ってもらうことで、
自身がここで学ぶことの意義を考えてもらう。

×愛校心の押しつけ ×過去の美化

3

3. 「法政学」のあらまし

1. 市民社会の開明とノンエリートの夢～法政大学と日本近現代史①
2. 「山の手」の市ヶ谷キャンパス～法政大学と地域社会
3. ボアソナードと梅謙次郎～法政大学と日本近現代史②
4. アジアからみつめる～法政大学と国際社会
5. リベラリズムの潮流～法政大学と日本近現代史③
6. 学生生活の今昔
7. 校歌「よき師よき友つどひ結べり」
8. 大内兵衛総長とその時代～法政大学と日本近現代史④
9. 先輩からのエール
10. ユニークな研究所
11. 近年の発展～法政大学と近現代史⑤
12. 近年の発展～法政大学と近現代史⑥ そして未来へ
13. 「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える
14. まとめとワーク「法政大学と自分たちの未来」

4

ほんのさわりを...

第1回 市民社会の開明とノンエリート之梦 ～法政大学と日本近現代史①

1880年 東京法学社設立

1881年 東京法学校へ



東京法学校初代主幹・薩埴正邦 (24)



金丸鐵 (28)



伊藤修 (23)

—ボアソナードに学んだ無名の若き創立者たちの情熱—

5

第3回 ボアソナードと梅謙次郎 ～法政大学と日本近現代史②

本学教頭に就任した政府の法律顧問

ボアソナードのフランス自然法思想

Ne lésez personne

人(の権利)を害してはならない

～古代ローマの法学者ウルピウス

(Gnaeus Domitius Ulpianus 170? - 228)の言葉



6

第5回 リベラリズムの潮流

～法政大学と日本近現代史③

1920(T9)年 大学令により私立大学が正式に「大学」として認可される

本学では法学部に加え、経済学部・予科の設置

1922年 哲学科・文学科を設置し、法文学部に

リベラリズムの発展

夏目漱石山脈に連なる学者たちの自由な精神

英文学者・野上豊一郎はじめ 安倍能成 内田百閒

森田草平 小宮豊隆 和辻哲郎ら

+ 西田幾多郎の京都学派の哲学者、三木清・戸坂潤ら

★現市ヶ谷キャンパスに校舎を新築し移転



4. 受講生から

2023年度 1年生の感想

法政大学も昔からずっと変わらずに時代を経てきたのではなく、時勢に乗って、先人たちの様々な思いを背負って、この現代まで歴史を積み上げてきたことが分かった。自分はこの時代の法政大学に通えてよかったと思うけれども、また別の時代に法政大学に通っていた人もそう思っていたかもしれない。同じ名前でも時代によって中身の違う法政大学で生きてきた先輩達がいるのを思い浮かべるとしみじみと感じるものがある。高校生の頃から行動力が大幅にアップしたからこそできることを探して「自由を生き抜く実践知」を心に、いろいろなことに挑戦していきたいと感じた。

今回の講義では今までの講義の総括のような内容でどの出来事が今の法政大学を形作っているのかが改めてわかった。法政大学ができるまでの歴史やさまざまな人の働きが今の法政大学にどのような影響を及ぼしているのかについても学ぶことができた。今、私たちが自分の学びたいことを自由に学ぶことができるのは薩埵やボアソナード、その他のさまざまな人、実際に講義をしてくださった先輩が自分たちのしたいと思う自由を追求し、実現してきたからだと思う。私たちも自分がしたいと思うことを主体的に追求していき社会に貢献することで後世の法政大学生に自由を生き抜く実践知を伝えて行くことが大切だと思う。

2023 年 9 月 7 日 (木)
於 法政大学卒業 50 年記念行事
古俣達郎

「法政学」の 1 コマ：学生生活の今昔
(『「法政学」とは何か ―あゆみをふまえてこれからを展望する―』)

1. 通常の授業内容

- ・ 講義タイトル：「学生生活の今昔」(第 6 回目)
- ・ 草創期から現在まで、「学生」「学生文化」の観点から法政大学の歴史を読み直す。
- ・ a. 草創期(明治期)のバンカラ書生→b. 大正末・昭和初期の「法政ボーイ」(大学昇格、昼間課程化の時代)→c. 戦時下の学生生活→d. 戦後復興期の学生たちの活動→e. 60・70 年代(大学紛争含む)→f. バブル期→g. 2000 年代以降。
- ・ 身近なテーマや「問い」から出発し(体育会、文化系団体、サークル、校舎、キャンパス遺跡等)、大学を考えるきっかけとする。

2. 映像紹介

- ・ HOSEI ミュージアム YouTube チャンネル「映像で見る法政大学」「法政おおわが母校」<https://www.youtube.com/channel/UC7nOo5MrmPrfjwppdTzwhQ>
- ・ ANNnewsCH「1971 年 学生の街 飯田橋、神田、お茶の水 空から見た法政、明治など有名大学の旧校舎」【東京へり撮 50 年】【映像記録 news archive】
<https://www.youtube.com/watch?v=rEiwgkwSstM>

3. 「学生生活の今昔」－60 年代後半から 70 年代初頭－

- ・ 1960 年代後半から 70 年代前半の日本社会
- ・ 法政大学の教育研究条件
- ・ 当時の学生生活とキャンパス
- ・ 法政スポーツ
- ・ 511 教室
- ・ 中村哲総長
- ・ 法大紛争
- ・ 遺産、その後

以上